

分娩介助の目安と介助の注意点

1. 分娩の兆候

分娩が近づくと、①乳房が張ってくる②骨盤靭帯がゆるみしっぽの力がなくなる③外陰部が発情のようにふっくらしてくる④やわらかい粘液が陰部より排出される⑤前回の検温よりも下がり、39度未満になります。

分娩予定日の確認と、兆候を見逃さず準備をしましょう。

2. 分娩介助の目安

分娩はできるだけ介助を行わないというのが近年の傾向です。ただし、①母牛の元気が無い②外陰部からの出血が見られる③陣痛が弱い、または無い④羊水の異常臭などの場合は必要となります。

2次破水(とろみの強い透明な液が出る)から未経産であれば2時間程度、経産牛であれば1時間程度で娩出されます。これ以上かかる場合は介助するか、胎位に異常があれば獣医師を呼びましょう。

3. 分娩介助の注意点

分娩介助を行う場合は、羊膜は人が破ってはいけません。また、力ずくの牽引は行わず、両手で産道を広げながら行くとスムーズに娩出できます。粘滑剤などを利用しましょう。

子牛の骨盤がひっかからないように最後は徐々に斜め下方向へ引っ張ります。また、陰部より助産器具や人の手を入れるときは消毒を行い、子宮の細菌感染を防ぎましょう。

同一方向に2つ関節を曲げられるのは前足、一方向にしか動かせないのが後ろ足です。胎位の確認も大切です。



4. 出生後の子牛の処置について

生まれた子牛は気道を確保するため、胎水、胎膜を除去します。このとき、人工呼吸器があると簡単に除去できます。次に羊水をタオルなどで拭き取り、マッサージをします。清潔なカーフウォーマーやドライヤーを利用して早く乾かすのも良い方法です。最後に臍帯の消毒をしましょう。



人工呼吸器

人間の都合で介助するのではなく、牛の状況を的確に判断して介助しましょう

(2019年8月発行 十勝農業改良普及センター十勝東北部支所)